

はっこう だ さん

八甲田山生物群集保護林

面積	計：6,409.70ha 津軽森林管理署：1,191.69ha 青森森林管理署：1,395.09ha（今回調査のプロット所在署） 三八上北森林管理署：3,822.92ha
設定目的 （管理方針書より抜粋）	<u>奥羽山脈の北端に位置し、ブナを主とする落葉広葉樹林がみられる。山地帯から亜高山帯上部はオオシラビソが優占する針葉樹林帯が見られ、ここでは大小様々な高層湿原や雪田草原等が分布し、多様な動植物が生息・生育している。</u> 本保護林は、これらの環境を一体のものとして保存するとともに、森林生態系の効果的な保全に資するために設定された。
前回調査の評価・課題等	<u>オオシラビソにおいては、一部の個体で風雪害による先折れ等が発生していたが、その他周辺域において大規模な風害・獣害・病虫害等は確認されなかった。</u>
モニタリングの実施間隔	10年

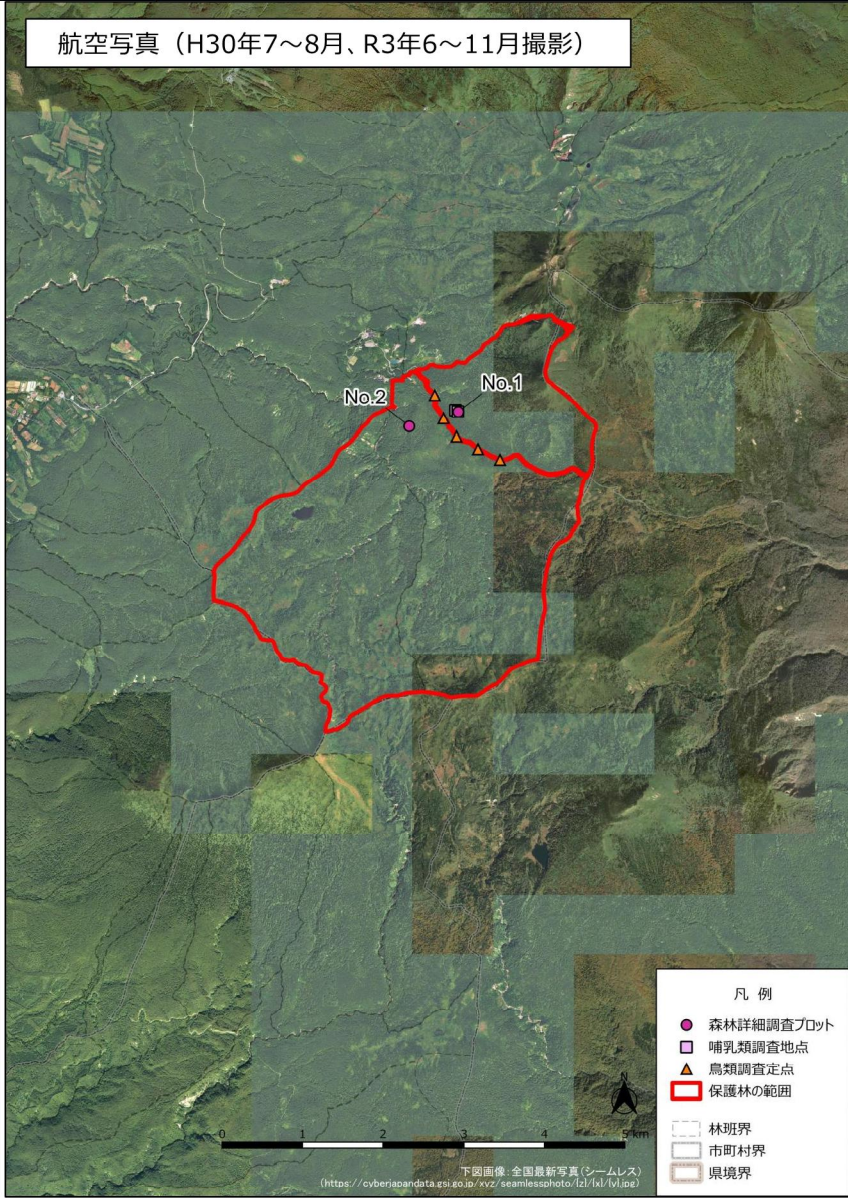
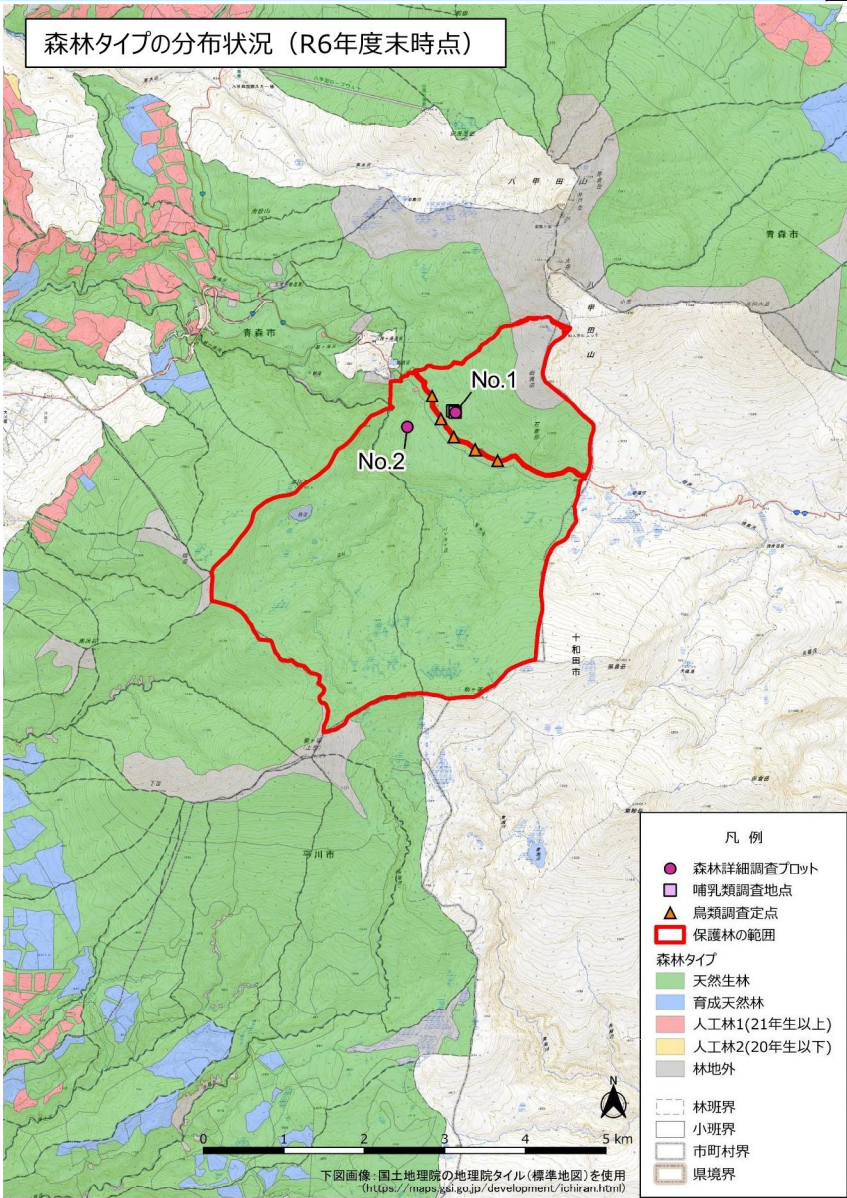
八甲田山生物群集保護林

実施した調査 資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(2箇所)

デザイン

奥羽山脈の北端に位置し、ブナを主とする落葉広葉樹林が見られる。山地帯から亜高山帯上部はオオシラビソが優占する針葉樹林帯が見られ、ここでは大小様々な高層湿原や雪田草原等が分布し、多様な動植物が生息・生育している。

本保護林内及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった。

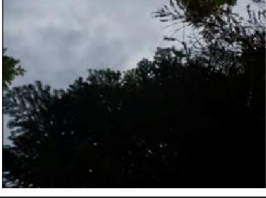


八甲田山生物群集保護林

デザイン

森林概況調査、森林詳細調査

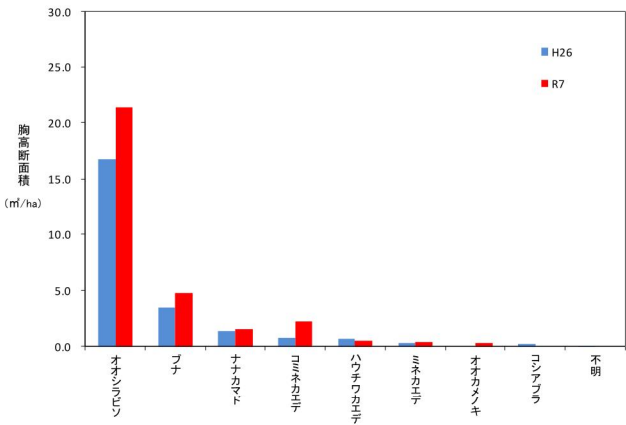
プロットNo.1

	H26 (10月2日)	R7(7月25日)	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

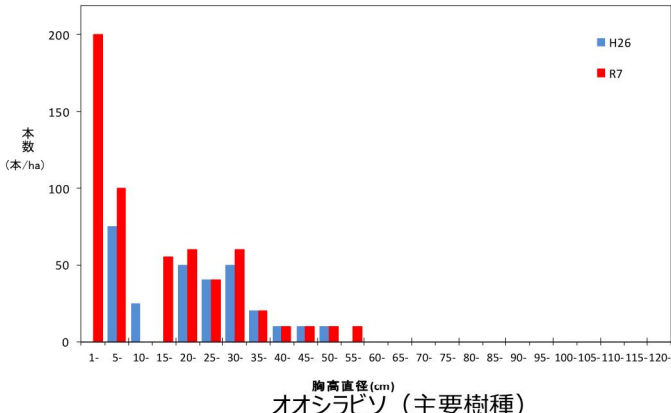
実施した調査 資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(2箇所)

樹種	平均胸高直径(cm)		胸高断面積(m ² /ha)		胸高断面積割合	
	H26	R7	H26	R7	H26	R7
オオシラビソ	23.7	16.2	16.74	21.35	70.8%	68.6%
ブナ	15.2	10.1	3.45	4.76	14.6%	15.3%
ハウチワカエデ	8.1	7.0	1.35	1.52	5.7%	4.9%
コミネカエデ	8.7	5.3	0.75	2.25	3.2%	7.2%
ミネカエデ	9.1	8.8	0.66	0.47	2.8%	1.5%
ナナカマド	9.0	10.3	0.34	0.45	1.4%	1.4%
オオカメノキ	—	2.2	0.00	0.32	0.0%	1.0%
コシアブラ	11.1	—	0.24	0.00	1.0%	0.0%
不明	7.2	—	0.10	0.00	0.4%	0.0%
9種	—	—	23.63	31.11	100.0%	100.0%

※緑セルは主要樹種を示す。



1ha当たりの樹種別胸高断面積



オオシラビソ (主要樹種)
1ha当たり胸高直径階別本数分布

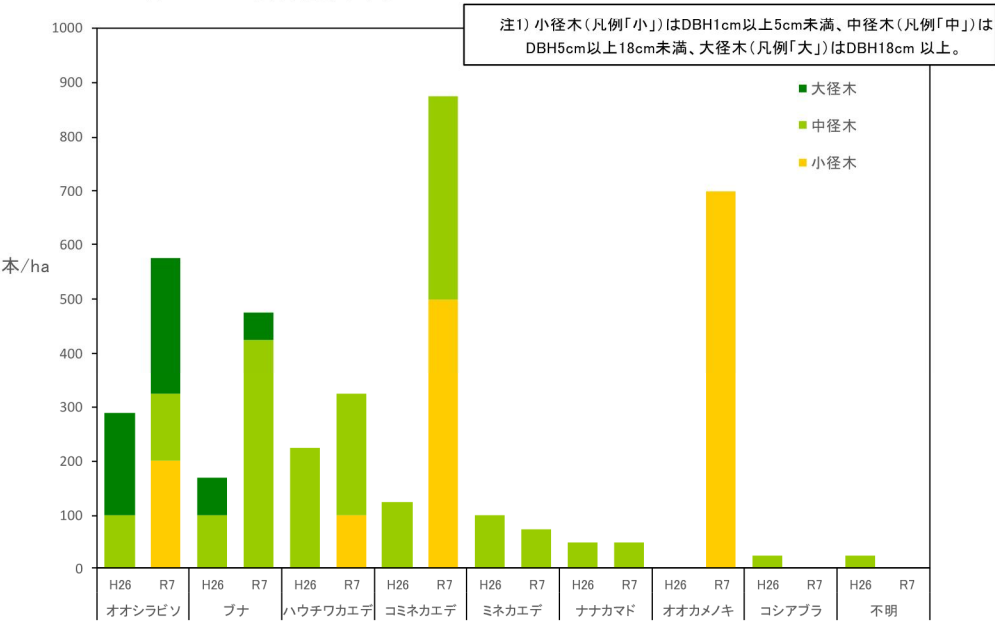
- ・オオシラビソ、ブナの混生林であり、林床はチシマザサに覆われている。
- ・写真を比較する限り、林相に大きな変化はなかった。
- ・オオシラビソの胸高断面積は増加し、胸高直径階は30cm階までのほとんどで増加、径の大きな55cm階でも増加が確認された。
- ・その他の出現種及び胸高断面積はブナ、コハウチワカエデ等で断面積に増加がみられ、本林分が順調に生育している様子が確認された。

デザイン

プロットNo.1

樹種	生育本数(本/ha)		本数割合	
	H26	R7	H26	R7
オオシラビソ	290	575	28.7%	18.7%
ブナ	170	475	16.8%	15.4%
ハウチワカエデ	225	325	22.3%	10.6%
コミネカエデ	125	875	12.4%	28.5%
ミネカエデ	100	75	9.9%	2.4%
ナナカマド	50	50	5.0%	1.6%
オオカメノキ	0	700	0.0%	22.8%
コシアブラ	25	0	2.5%	0.0%
不明	25	0	2.5%	0.0%
9種	1010	3075	100.0%	100.0%

※緑セルは主要樹種を示す。



注2) 小円内の計測対象樹木が(保護対象種以外は)H26年度はDBH5cm以上、R7年度はDBH1cm以上であるため、小径木に関しては本数に大きな違いがある。

1ha当たりの樹種別生育本数



林内の景観



林床の湿った箇所



オオシラビソの実生

- ・主要樹種であるオオシラビソの生育本数は1ha当たり290本から575本へと大きく増加した。
- ・ブナは中径木が大きく増加、大径木はやや減少した。
- ・低木層ではコミネカエデ、オオカメノキが大きく増加しているが、これは前回の調査対象が小円で5cm以上(特定樹種であるオオシラビソを除く)であったところから、今回は1cm以上が対象となった為によるものと考えられる。

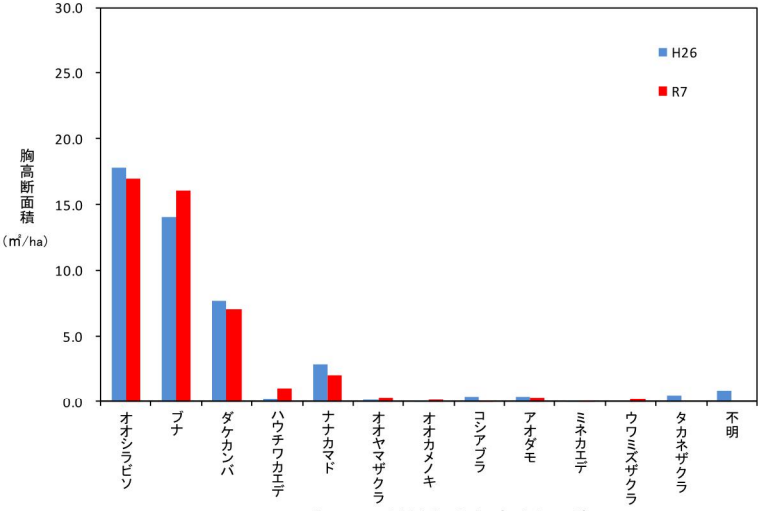
デザイン

森林概況調査、森林詳細調査
プロットNo.2

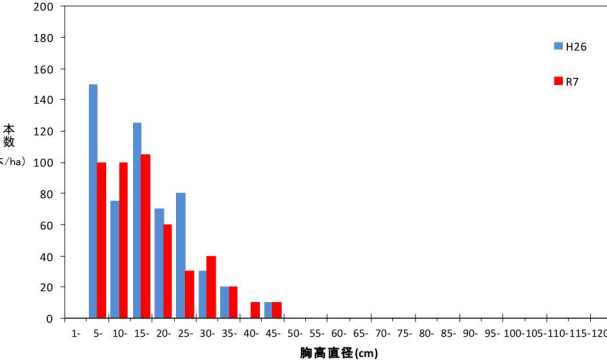
	H26(6月18日)	R7(7月25日)	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

樹種	平均胸高直径(cm)		胸高断面積(m ² /ha)		胸高断面積割合	
	H26	R7	H26	R7	H26	R7
オオシラビソ	17.9	18.9	17.79	16.99	39.4%	38.2%
ブナ	31.6	33.7	14.07	16.07	31.1%	36.1%
ダケカンバ	47.4	53.2	7.69	7.08	17.0%	15.9%
ハウチワカエデ	7.8	3.2	0.24	1.06	0.5%	2.4%
ナナカマド	17.9	29.0	2.85	2.08	6.3%	4.7%
オオヤマザクラ	6.4	6.3	0.16	0.31	0.4%	0.7%
オオカメノキ	5.2	2.0	0.05	0.14	0.1%	0.3%
コシアブラ	8.9	5.3	0.47	0.11	1.0%	0.2%
アオダモ	22.2	21.8	0.39	0.37	0.9%	0.8%
ミネカエデ	5.5	6.7	0.06	0.09	0.1%	0.2%
ウワミズザクラ	-	7.7	0.00	0.23	0.0%	0.5%
タカネザクラ	16.6	-	0.54	0.00	1.2%	0.0%
不明	15.6	-	0.89	0.00	2.0%	0.0%
13種	-	-	45.20	44.54	100.0%	100.0%

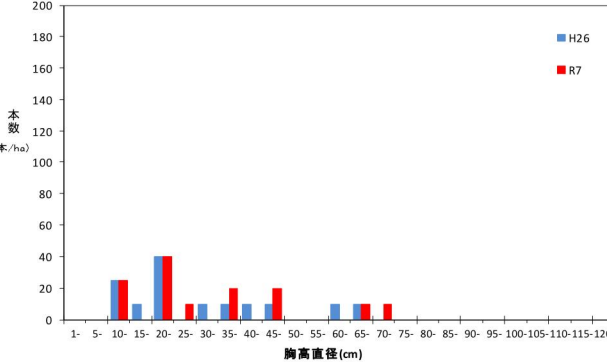
※緑セルは主要樹種を示す。



1ha当たりの樹種別胸高断面積



オオシラビソ（主要樹種）
1ha当たり胸高直径階別本数分布



ブナ（主要樹種）
1ha当たり胸高直径階別本数分布

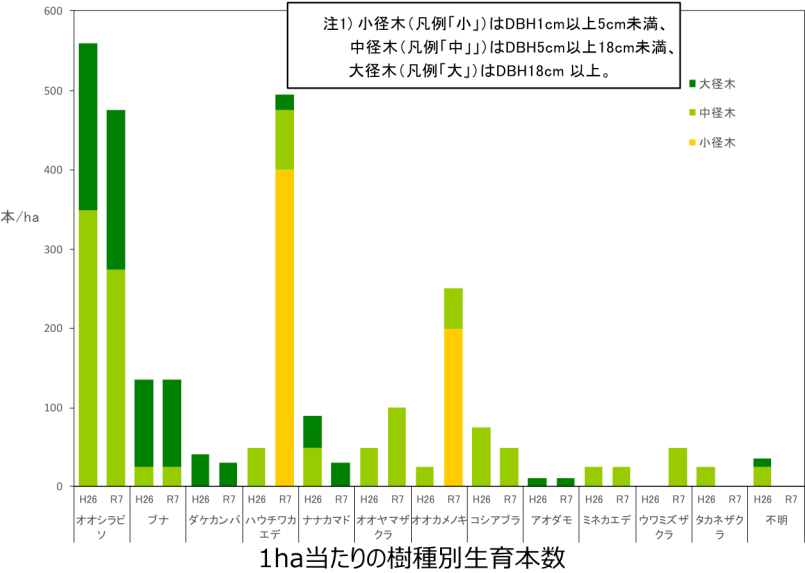
- ・No.1と同様のオオシラビソ、ブナの混生林であり、林床はチシマザサに覆われている。
- ・写真を比較する限り、林相に大きな変化はなかった。
- ・オオシラビソの胸高断面積は微減し、ブナの胸高断面積には微増した。
- ・主要樹種2種の胸高直径階では、わずかに進階がみられた。
- ・高木層及び亜高木層については、胸高断面積に大きな変化はみられなかった。

デザイン

プロットNo.2

樹種	生育本数(本/ha)		本数割合	
	H26	R7	H26	R7
オオシラビソ	560	475	50.0%	28.8%
ブナ	135	135	12.1%	8.2%
ダケカンバ	40	30	3.6%	1.8%
ハウチワカエデ	50	495	4.5%	30.0%
ナナカマド	90	30	8.0%	1.8%
オオヤマザクラ	50	100	4.5%	6.1%
オオカメノキ	25	250	2.2%	15.2%
コシアブラ	75	50	6.7%	3.0%
アオダモ	10	10	0.9%	0.6%
ミネカエデ	25	25	2.2%	1.5%
ウワミズザクラ	0	50	0.0%	3.0%
タカネザクラ	25	0	2.2%	0.0%
不明	35	0	3.1%	0.0%
13種	1120	1650	100.0%	100.0%

※緑セルは主要樹種を示す。



注2) 小円内の計測対象樹木が(保護対象種以外は)H26年度はDBH5cm以上、
R7年度はDBH1cm以上であるため、小径木に関しては本数に大きな違いがある。。

・オオシラビソの生育本数は減少したが、ブナは変化はみられなかった。

・高木層、亜高木層におけるその他の確認種及び生育本数では、ナナカマドが減少したほかは前回の調査とほぼ同様であった。

・低木層ではハウチワカエデ、オオカメノキの生育数が大きく増加した（調査手法の変更により、小円内での計測対象個体がDBH5cm以上であったものが、DBH1cm以上となったためと考えられる）。



ブナ高木の様子

デザインに関する評価

基準	指標	結果
地域固有の生物群集を有する森林が維持されている	自然状態が十分保存された天然林等の構成状況	森林タイプの分布に大きな変化は確認されなかった。
		・プロットNo.1、No.2とも林相に大きな変化はなかった。 ・プロットNo.1では、全体的に胸高断面積が増加し、オオシラビソは小径木が多数確認された。 ・プロットNo.2では、主要樹種であるオオシラビソの中径木の減少があり、胸高断面積は微減となった。ブナは小径木が確認されなかったが、実生はわずかに確認された。

八甲田山生物群集保護林

価値

森林詳細調査 下層植生調査結果

プロットNo.1

調査区	H26	R7		重要種 ^注	
年度	プロット全体	N	S		
低木層の植被率(%)	70	70	80	環境省RL	青森県RL
低木層の優占種	チシマザサ	チシマザサ	チシマザサ		
草本層の植被率(%)	20	30	20		
草本層の優占種	ヤマソテツ	マイヅルソウ	ヤマソテツ		

出現種数	32	19	17	0	0
ウラジロヨウラク	○	○	○		
オオカメノキ	○	○	○		
オオシラビソ	○	○	○		
コシアブラ	○	○	○		
チシマザサ	○	○	○		
ナナカマド	○	○	○		
ヒメモチ	○	○	○		
ブナ	○	○	○		
マイヅルソウ	○	○	○		
ミツバオウレン	○	○	○		
ヤマソテツ	○	○	○		
オオバスのノキ	○		○		
ショウジョウバカマ	○		○		
ツクバネソウ		○	○		
ツルアリドオン	○	○			
ツルツゲ		○	○		
ノリウツギ	○		○		
ハイイヌツゲ	○	○			
ミヤマナルコユリ	○	○			
アカミノイヌツゲ	○				
アケシバ	○				
イワガラミ			○		
エゾユズリハ	○				
ゼンマイ	○				
ツノハシノバミ	○				
ツバメオモト		○			
ツルシキミ	○				
ツルリンドウ	○				
トリアシショウマ	○				
ハウチワカエデ		○			
ハクサンシャクナゲ		○			
ハナヒリノキ	○				
ハリブキ	○				
ホツツジ	○				
ミズバショウ	○				
ミゾシダ	○				
ミネカエデ	○				
ヤマウルシ	○				

注1) H26年度はプロット内全てが、R7年度はN区、S区が調査範囲であるため、調査面積は異なる。

注2) 重要種の選定基準等は以下の通りである。

環境省RL:「環境省レッドリスト2025の公表について」(令和7年、環境省) 該当無し

青森県RDB:「青森県レッドデータブック(2020年版)」(令和2年、青森県) 該当無し

・プロット1では、低木層、草本層ともに優占種及び確認種に大きな変化はみられなかった。

・プロット2では、低木層の優占種に変化はないが、草本層はチシマザサからマイヅルソウに変化した。

・チシマザサはプロット全体では非常に多く生育しているが、調査対象箇所の草本層では減少がみられた。(全体の被度としては変化はなかったと考えられる。)

・外来種は確認されなかった。



プロットNo.1 S区



プロットNo.2 N区

実施した調査

資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(2箇所)

プロットNo.2

調査区	H26	R7		重要種 ^注	
年度	プロット全体	N	S		
低木層の植被率(%)	60	70	50	環境省RL	青森県RDB
低木層の優占種	チシマザサ	チシマザサ	チシマザサ		
草本層の植被率(%)	20	30	70		
草本層の優占種	チシマザサ	マイヅルソウ	マイヅルソウ		

出現種数	30	14	14	0	0
オオカメノキ	○	○	○		
オオシラビソ	○	○	○		
コシアブラ	○	○	○		
チシマザサ	○	○	○		
ツバメオモト	○	○	○		
ヒメモチ	○	○	○		
マイヅルソウ	○	○	○		
ウラジロヨウラク	○		○		
ウワミズザクラ	○		○		
オオバクロモジ	○	○			
ケアオダモ		○	○		
シノブカグマ	○	○			
ツルアリドオン	○		○		
ノリウツギ	○		○		
ハウチワカエデ	○	○			
ヒヨウノセンカタバミ	○	○			
ホソバトウゲシバ	○		○		
アカイタヤ	○				
アケシバ	○				
イワガラミ	○				
オオバスのノキ	○				
オオヤマザクラ	○				
タカネザクラ	○				
ツクバネソウ	○				
ツタウルシ		○			
ツルリンドウ	○				
ナナカマド	○				
ハイイヌツゲ	○				
ハリブキ	○				
ブナ	○				
ミゾシダ	○				
ミネカエデ			○		
ヤマウルシ	○				
ヤマソテツ		○			

注1) H26年度はプロット内全てが、R7年度はN区、S区が調査範囲であるため、調査面積は異なる。

注2) 重要種の選定基準等は以下の通りである。

環境省RL:「環境省レッドリスト2025の公表について」(令和7年、環境省) 該当無し

青森県RDB:「青森県レッドデータブック(2020年版)」(令和2年、青森県) 該当無し

価値

野生動物の生息状況

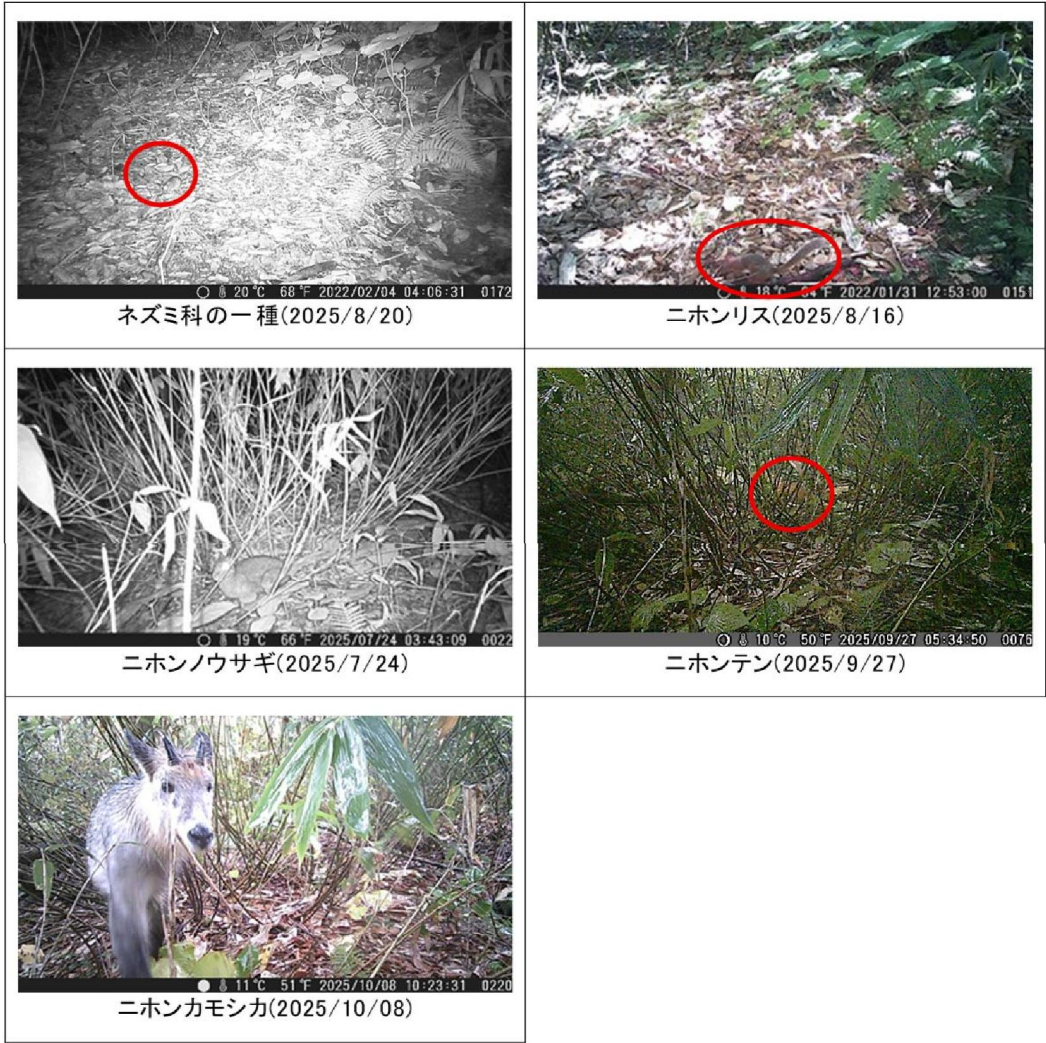
撮影状況

確認された哺乳類

No.	科名	種名	H26	R7	環境省RL 2020	青森県RDB 2020
1	ネズミ	ネズミ科の一種		○		
2	リス	ニホンリス		○		
3	ウサギ	ニホンノウサギ		○		
4	イタチ	ニホンテン	○	○		
5	ウシ	ニホンカモシカ		○		
計	5科	5種	1種	5種	0種	0種

注1) 種名および種の配列は「世界哺乳類標準和名目録(2018 日本哺乳類学会)」に準拠した。
注2) 種の特が困難なものは科や属で示し、同科・属が確認された場合には種数に計上しなかった。
注3) 重要種の選定基準等は以下の通りである。
環境省RL:「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年、環境省) 該当無し
青森県RDB:「青森県レッドデータブック(2020年版)について」(令和2年、青森県) 該当無し

・今回調査では、ネズミ科の一種、ニホンリス、ニホンノウサギ、ニホンテン及びニホンカモシカが確認された。



八甲田山生物群集保護林

実施した調査

資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(2箇所)、哺乳類・鳥類調査

価値

野生動物の生息状況

確認された鳥類

No.	科名	種名	H26	R7	環境省RL 2020	青森県RDB 2020
1	ハト	キジバト	○	○		
2				○		■
3	タカ		○		■	■
4		トビ	○			
5		ノスリ		○		
6	カワセミ			○		■
7	キツツキ	コゲラ		○		
8				○		■
9		アオゲラ	○			
10	カラス	カケス		○		
11			○			■
12		ハシブトガラス	○	○		
13	シジュウカラ	ヒガラ	○	○		
14		ヤマガラ	○	○		
15		コガラ	○	○		
16		シジュウカラ	○	○		
17	ヒヨドリ	ヒヨドリ		○		
18	ツバメ	イワツバメ	○	○		
19	ウグイス	ウグイス	○	○		
20	エナガ	エナガ		○		
21	ムシクイ	エゾムシクイ		○		
22	メジロ	メジロ	○	○		
23	キクイタダキ	キクイタダキ		○		
24	ミソサザイ	ミソサザイ		○		
25	ツグミ	シロハラ		○		
26		アカハラ		○		
27	ヒタキ	キビタキ	○	○		
28		ルリビタキ		○		
29	セキレイ	キセキレイ		○		
30		ハクセキレイ	○			
31		ビンズイ		○		
32	アトリ	アトリ		○		
33		ウソ		○		
34				■		■
35	ホオジロ	ホオジロ		○		
36		アオジ		○		
37				■		■
計	19科	37種	15種	32種	1種	7種

注1) 種名および種の配列は「日本鳥類目録 改訂第8版」(2024年、日本鳥学会)に準拠した。

注2) 重要種の選定基準等は以下の通りである。

環境省RL:「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年、環境省)

NT: 準絶滅危惧

青森県RDB:「青森県版レッドリスト2020(鳥類)」(令和2年、青森県)

B: Bランク、C: Cランク、D: Dランク

・確認種数は32種であった。

病虫・鳥獣・気象害の発生状況

項目	結果
病虫害	プロットNo.2において、オオシラビソはキクイムシらしき穿孔跡があり、葉の変色が確認された。
鳥獣害	記録なし
気象害	・プロットNo.1、No.2のオオシラビソは共に風雪害によるものと思われる幹折れが確認された。 ・プロットNo.2では裂傷が2本確認された。

価値に関する評価

基準	指標	結果
森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護が図られている	野生生物の生育・生息状況、森林の被害状況	下層植生の生育状況に目立った変化は確認されなかった。
		外来種は確認されなかった。
		野生動物調査では、生態系の上位種が確認された。
		オオシラビソの一部の個体で虫害あるいは寒風害等の可能性があることが示唆された。

八甲田山生物群集保護林

実施した調査	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(2箇所)
--------	-------------------------

利活用

- ・16本の学術論文が確認された。
 - ・「南八甲田山系櫛ヶ峯広葉樹林の新緑期森林環境色彩（松村、2023）」
 - ・「多雪山地高標高域に生育するミズナラの遺伝的分化（渡辺ほか、2022）」
 - ・「雪山における落葉樹の開葉時期：可塑性と進化、気候変動に対する応答（石田ほか、2018）」 など

利活用に関する評価

基準	指標	結果
森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている	学術研究での利用	学術研究等への利用が16件確認された。

管理体制

- 【青森森林管理署】
- ・当該区域は定期的な巡視業務の中で不法投棄の監視、貸付地の確認、国有林境界の管理等を行っている。
 - ・関係機関と連携し高山植物の盗掘防止のパトロールを行い一般入林者へ注意喚起の呼びかけを行っている。
 - ・R6年度に八甲田地区に山菜取りによる一般入山者の人身被害があったことから、関係機関と連携し一定期間入林禁止の対応策を図った。
- その後、令和7年に青森市でツキノワグマ被害防止連絡会議が設置され、一般入山者への入林自粛を呼びかけている。

- 【環境省東北地方環境事務所十和田八幡平国立公園管理事務所】
- ・不定期で巡視を実施し、歩道の状況や利用状況の確認などを行っている。必要に応じて管理者である青森県に報告し、利用者への注意喚起等を行っている。
 - ・青森県からの依頼を受け、十和田八甲田地区パークボランティア活動として、残雪期の道迷いや植物の踏み荒らし防止のためのロープを登山道に設置している（ロープは積雪前に撤去している）。 など

管理体制に関する評価

基準	指標	結果
適切な管理体制が整備されている	保護林における事業・取組実績、巡視状況等	関係機関により保護林及び周辺地域において林道点検、林野巡視等が行われている。

現地調査結果総括・考察

プロットNo.1

調査年度		H26	R7
調査日		2014/10/2	2025/7/25
プロット情報		斜面方位、傾斜(平均) N60W, 6°	
局所地形		山腹の斜面	
林分状況	段階	成熟	成熟
	【高木層】主要構成樹種	オオシラビソ	オオシラビソ
	【高木層】植被率	30%	30%
	【高木層】樹高	10~12m	10~13m
	【高木層】DBH	40~50cm	30~50cm
	【亜高木層】主要構成樹種	オオシラビソ、ブナ	オオシラビソ、ブナ
	【亜高木層】植被率	40%	50%
	【亜高木層】樹高	5~8m	5~9m
	【亜高木層】DBH	20~30cm	10~30cm
	【低木層】主要構成樹種	チシマザサ、オオカメノキ、	チシマザサ、オオカメノキ
林分等の状況	【低木層】植被率	70%	70%
	【低木層】樹高	1~3m	1~3m
	【低木層】DBH	(過去データに記載なし)	1~7cm
	【草本層】優占種	ヤマソテツ、ミズバショウ、オオカメノキ	ヤマソテツ、ミズバショウ、オオカメノキ
	【草本層】植被率	20%	30%
林分等の状況		オオシラビソ、ブナの混生林。林床はチシマザサで覆われている。胸高断面の増加が確認され、健全な状態であった。オオシラビソ、ブナともに後継木が豊富で天然更新も十分に期待できる状況であった。	
林況写真			

- ・プロットNo.1ではオオシラビソが林冠を構成しており、ブナが混生している。
- ・健全な状態の高木が複数本確認されている。
- ・オオシラビソの小径木が増加しており、実生も多数確認され後継樹の生育も良好であった。
- ・風雪害による幹折れが確認されているが林分に影響を及ぼす程ではなかった。
- ・下層植生調査では、今回比較的多数の生育が確認されたヤマソテツ等はおおむね前回調査でも確認されており、当該範囲では大きな変化はなかったと考えられる。

プロットNo.2

調査年度		H26	R7
調査日		2014/10/2	2025/7/24
プロット情報		斜面方位、傾斜(平均) N26W, 16°	
局所地形		山腹の斜面	
林分状況	段階	成熟	成熟
	【高木層】主要構成樹種	オオシラビソ、ブナ	オオシラビソ、ブナ
	【高木層】植被率	70%	70%
	【高木層】樹高	18~20m	17~23m
	【高木層】DBH	40~60cm	40~70cm
	【亜高木層】主要構成樹種	オオシラビソ、ブナ	オオシラビソ、ブナ
	【亜高木層】植被率	40%	30%
	【亜高木層】樹高	10~15m	8~15m
	【亜高木層】DBH	20~30cm	10~40cm
	【低木層】主要構成樹種	チシマザサ	チシマザサ
林分等の状況	【低木層】植被率	60%	85%
	【低木層】樹高	1~3m	1~3m
	【低木層】DBH	(過去データに記載なし)	1~8cm
	【草本層】優占種	オオバノキ、オオシラビソ	マイヅルソウ、オオカメノキ
	【草本層】植被率	20%	40%
林分等の状況		オオシラビソ、ブナの混生林。林床はチシマザサで覆われている。胸高断面の全体での増加が確認され、健全な状態であった。オオシラビソは後継樹も多くみられるが、ブナについては小径木がなく更新について注視する必要がある。	
林況写真			

- ・プロットNo.2では、オオシラビソ、ブナが混生しており、その他高木種としてダケカンバが生育している。
- ・幼齢木はオオシラビソ、ブナ共に確認され、後継木は豊富であった。
- ・草本層の一部で植被率が増加し、ハウチワカエデ、オオシラビソの小径木が増加した。
- ・実生はチシマザサが密生した場所では少なく、開けた明るい。これらは、調査対象箇所でチシマザサが減少し林床が明るくなったことが一因と考えられる。

- ・哺乳類調査では、今回調査では5科5種の哺乳類が確認された。新たに新たに4種(ネズミ科の一種、ニホンリス、ニホンノウサギ及びニホンカモシカ)が確認されたが、前回と設置場所等が異なるため比較は困難である。
- ・ニホンカモシカやニホンノウサギなど植物食性の種が多く確認されており、当該地域において良好な森林環境が保持されていることが示唆された。
- ・鳥類調査では、鳥類相に大きな変化は認められなかったが、前回より確認種数が増加した。
- ・カラ類やキビタキ等の山地帯の樹林を繁殖地として好む種が継続して確認されたほか、アオジや[REDACTED]といった低木の藪環境を好む種が確認された。調査地域はこれらの種にとって好適な生息環境が保持されているものと考えられる。

まとめ・考察

全体まとめ

- ・本保護林はオオシラビソとブナの混生林で、安定して生育する林況となっていた。
- ・実生や幼齢木も多数確認されたことから、天然更新も十分に期待できる林分であるといえる。
- ・森林タイプの分布状況の変化や鳥獣害は特に確認されなかった。
- ・気象害としてプロットNo.1、No.2の両地点で風雪害による幹折れ、裂傷などが確認されたが、林分に影響を与える程ではないものとする。また、病虫害が1本確認されたが、おおむね全体として安定して維持されている。
- ・わずかな幹折れ等は林床への照度が増し、実生の生育が促進されることが期待されるため、直ちに問題とはならないと考えられる。
- ・今後も引き続き継続的なモニタリングを実施し、森林の状況に留意していくことが望ましい。

評価と今後の対応

項目	結果・対応等
今回の評価を踏まえた 今後の対応について	・定期的な巡視を継続 ・10年後にモニタリングを実施
保護・管理及び利用に関する事項 (保護林管理方針書)	原則として自然の遷移に委ねることを基本とし、施業等を必要とする場合には、管理経営の指針に基づき行うこととする。 ※現行どおりとする。